

2018年6月8日
宮越ホールディングス株式会社

宮越社長インタビュー③:「WICはイノベーションと営業の二刀流が活躍する舞台」

——中国には出たい。でも企業もお役所も敷居が高くてちょっと、との声も聞くのですが。

「急成長している会社だったり、国、地方政府は変革途上だったり、やることは山ほどある。忙しいのは確かです。簡単に会えないから敷居が高いと感じるのでしょうか。しかし、価値ある話を持ち込む場合は、我々が政府と協力しておつなぎします。一番いいのは政府に動いてもらうことです。役所の対応も変わってきています。例えば、政府が企業誘致を始めたころは進出許可をとろうとするとあちこち十か所くらい役所を回って書類を集め、それでようやく必要書類を提出し、やっと許可が下りるということがありましたが、今や一カ所で済むようになってきました。進出企業の利便性を考え、我々の責任においてWIC内に役所の出先機関を呼んでできます。500社も進出してくるので協力してもらいます。我々も専任の職員を配置し、企業進出、ユーザー開拓などビジネス上の問題から病院や学校の紹介など生活上の問題まで様々なサービスを役所と協力して、一カ所で提供することを考えています。中国発のワンストップサービスの考え方はいろんなところで始まっています。いわんやイノベーションセンターなのですから今あるやり方を超越するものにしたいと思います」

——企業以上にお役所は敷居が高いというイメージがあるのですが、違うのですか。

「それは全然、違います。中国にとって今日の成長は進出企業に負うところが大きいことは認めています。技術、資本、雇用機会を持ち込み、税金を納め、国策のイノベーションを推進してくれるのですからありがたい存在でしょう。それに中国の役人ぐらい仕事をする人たちはいませんよ。ちょっと大きな会社が進出してきたとなると、担当課長がついて、何か不都合はありませんか、今年の利益どうですかと聞いて回る。必要なら不都合を解決する具体的な手を打ってくれる。そんな国はありますか。特に、現体制になってからきめ細かなフォローをしてくれるようになりました」

——そこまでやってもらえるとは正直、意外でした。

「意外でもなんでもありません。我々は深圳市と手を組んでやっている。ということは深圳市の意向そのもので動いている。すなわち国家の意向そのもので動いている。当初、我々は東京ミッドタウンのような一般的な街造りをしようとしていました。それが国策で创新驱动、即ちイノベーションを成長の推進力にしようとは変わってきた。政策に沿ってイノベーションの街を造ることに変えました。確かに、事業主体は当社グループですが、行政目的を担っているのですから支援があるのです」

——外国からの進出企業だけでなく、中国国内からやってくる企業も助かりますよね。

「国内企業のメリットは極めて大きいといえます。我々はロボット工業展とかIT技術展

などで中国各地の地方企業と接する機会があります。深圳プロジェクトの話をしてします。彼らは深圳はいい。政府も力を入れているし、先端企業、優良企業も数多く育っている。国際交流も盛んで、技術水準も高い。辺鄙な地方にはビジネス情報も伝わりにくい。深圳に出たいが、事情もよくわからないという声を少なからず耳にします。だから私達は政府と相談して中国のすべての省からできるだけまんべんなく企業を集め、W I Cに地方を代表するような250社に進出してもらおうことにしました。そうすると深圳で起きていることが進出企業を通じその日のうちに中国全土に伝わる。もちろんイノベーションに関する最新情報も伝わる。もう情報過疎地などとは言わせない。情報レベルが全国くまなく底上げされる。経済的な恩恵もくまなく波及する。国家にとってもいいことです。深圳だけでなく中国全体のことも常に気配りする視点を忘れないように心がけています」

——深圳は世界第二のシリコンバレーを目標にしていますが、大分本家とは違いますね。

「日本からシリコンバレーに7~800社出ていますが、情報収集と技術を習得しようという会社が多いようです。深圳は13億人の民を抱え、まだまだ成長率の高い市場に立地しています。学ぶだけでなく、モノを作ったり売ったり出来るビジネスチャンスの多いところ。W I Cに進出する250社の売り上げだけで中国のハイテク関係の売り上げ全体の3割に相当する見込みです。巨大な中国市場がここに集まっているともいえる。学びながら稼げる場所です。学びも一流、稼ぎも一流の二刀流が活躍する舞台です。これは日本企業にとっても大変な魅力でしょう。しかも国家が先頭に立って旗を振っている。だから、この先大変なエネルギーが集まってくるでしょう。長い歴史の視点で見れば深圳はシリコンバレーを追い抜いていきます」

——民間の枠を超えた大変な役割を背負っていると言えませんか。

「行政と一体だからこそ、W I Cは民間の枠を超えたレベルの街になることができるのです。深圳市には中国の代表的なハイテク民間企業が多数本拠を構えています。様々なハイテク、イノベーション施設もあちこちにある。深圳にやってきてハイテクやイノベーションを見よう、学ぼうという人はどこへ行けばいいのか、迷うというかも知れない。迷う必要なんかない。深圳の中心部のなかでもそのままだ真ん中に位置するW I Cに行けばいい。イノベーション都市・深圳を象徴する街、そういうものを政府も我々も一緒になって造ろうとしているのです」

「さらに、言葉を換えて言うと、W I Cはあの北京オリンピックのメイン会場として大成功を収めた鳥の巣のようになることを目指しています。鳥の巣には世界各国から一流のアスリートが集まり、競技を通して、互いに触発されて、成長して巣立って行った。W I Cは各国からイノベーション志して集まった一流企業の真剣勝負の場であり、互いに刺激し合い、啓発し合い、何かを得たり、生み出したりして世界に羽ばたいてもらいたい」

以上